

令和4年度 特色ある道徳教育推進校

我孫子市立我孫子第一小学校

研究主題

考え、議論する道徳への転換を目指した指導方法と評価の実践研究

取組1 考え、議論する道徳授業の指導方法の工夫

工夫1 自分事とするための発問の工夫

児童の意見に対して、繰り返し発問を大切にしている。繰り返し発問をすることで、意見を言った児童だけでなく、クラス全体でその意見について考えさせながら、より考えが深められるようにしている。例えば、「なぜ〇〇は、このような行動をとったのかな？みんなは、どう思う？」のように聞き、時には、批判的に、「それは本当なのか？それはどういう意味なのか？本当にこう考えてよいのか？」などの発問を通して、道徳的価値の理解を深めるようにしている。

工夫2 他者と協働する学びの工夫

ICTの活用



○skyメニューのポジショニング機能の活用

- ・自分の立場を明らかにしたり、考えが変わったときに移動したりできる。(個→集団の話し合いへ)
- ・立場の移動があった子供や移動をしなかった子供などの軌跡が分かり、授業で指名する際の参考にもなっている。

板書の工夫

○問題場面の状況を説明するための図の活用 (文科省の道徳教育アーカイブの実践事例を参考)

- ・学習課題の明示
- ・矢印の活用



○場面絵の活用

- ・場面絵を貼る位置の工夫
- ・表情への着目(「怒っている」「にこにこ」などの発言を引き出す)
- ・表情カードの活用



工夫3 自分事とするための指導方法の工夫

○体験的な学びを通しての役割演技の実践

- ・授業公開の実施(1年「かぼちやのつる」)
- ・役割演技の基本的な指導過程の研修
 1. 教材を読み、発問する。
 2. 演者を選定する。(心情や状況を理解している子)
 3. 演者に自発的に演じさせる。
 4. 観客に、演じられた役割の意味について気づいたことを発表させる。
 5. 演者に、演じた役割の意味について思ったり感じたりしたことを発表させる。
 6. 明らかになったこと、わかったことを確認する。

麗澤大学 広中忠昭先生

工夫4 職員研修や環境の工夫

- ・基本的な道徳の授業の流れや板書の仕方を職員全体で共通理解する。
- ・若年層の教員が中心となった授業作り研修の実施(ボトムアップ型で研修が広がる)
- ・学年ごとの道徳クリアファイルの活用
(A3の場面絵・板書・資料などを保管)



取組2 振り返り活動の工夫

振り返りの4視点

- ＊学習をふりかえろう
- ① 今日の学習で、考えたことや学んだことはなんですか。
 - ② 友達の意見や考えを聞いて、わかったことはありましたか。
 - ③ 自分に、いたような言いけんはありましたか。
 - ④ これから、どんなふうに生活していきたいですか。

○学校統一の振り返りの4視点の活用

(2018年より使用)

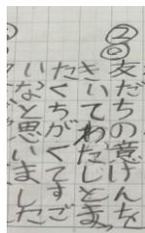
- ・授業の終末での振り返りの時間の確保
- ・ノートの裏表紙への貼付と板書への掲示(振り返りを書くときに参考になっている)
- ・授業改善と評価の際に参考にする。

○振り返りの記述例

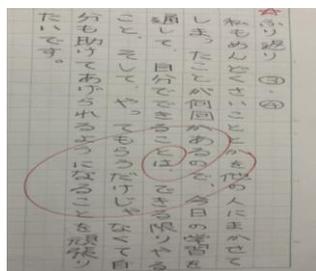
①の視点(6年生)



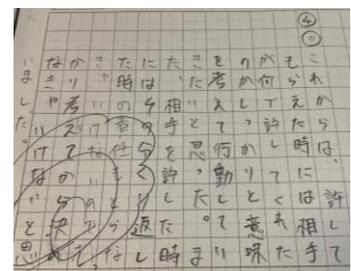
②の視点(3年生)



③の視点(6年生)



④の視点(6年生)



主な成果と課題

- 基本的な道徳の授業の流れや工夫された指導方法を学び共有することで、道徳的価値を理解し、深い学びへとつながる授業づくりをすることが出来た。
- 全校統一の振り返り活動とその積み重ねがあり、児童が安心して学習に取り組めた。
- 若年層教員から研修が学校全体へと広がり、授業改善が進んだ。
- ICTの効果的な活用をより進めるために、具体的な手立てを考えていきたい。
- 教材分析や指導観の設定、発問・切り返し発問の組み立てや精選などをさらに研修していく必要がある。

授業実践事例

第6学年2組 道徳科学習指導案

令和4年 11月21日(月)

- 1 主題名 法やきまり、権利と義務 内容項目 (C-12 規則の尊重)
教材名 「星野君の二るい打」(東京書籍『新しい道徳 6年』)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

教材は、内容項目C「主通して集団や社会との関わりに関すること」の12 規則の尊重の生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。そして、高学年における内容項目C- (12)「法やきまりの意義を理解した上で進んで守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」にあたる。これは、低学年における内容項目C- (10)「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」、中学年における内容項目C- (11)「約束やきまりの意義を理解し、それらを守ること。」からつながっている。指導にあたっては、社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法(法律)などを進んで守り従う遵法(そんぽう)の精神をもつところ

まで高めていく必要がある。また、他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかりと果たそうとする態度を育成することが重要である。また、身近な集団生活を送る上においても、みんなで互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようにしていきたい。

(2) 児童生徒の実態

本学級の児童は、委員会活動や当番活動に意欲的で、決められた自分の役割をしっかりと果たそうする姿が多く見られる。一方で、自分の都合や不都合を優先させてしまい、相手の状況によってきまりを守ったり守らなかったりする児童もいる。ほとんどの児童は、きまりは守らなくてはいけないものだと思っているため、なぜ守らなくてはいけないのかまで意識して行動していないと考えられる。そこで、きまりを守らないことが集団にどのような影響を与えているのか、きまりは自分や周囲の人々が幸せになるためにあるということに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、星野君は野球の試合において監督の「バント」の指示を守らず、自分の判断でバントを振り、二塁打を打つ。しかし試合の翌日、監督は、チームのルールを破った星野君の行動についてチームメイトに問うとともに、厳しい判断を伝える内容である。星野君の判断とチームのルールの双方を考えながら、きまりを守るの意味について考えることができる資料である。本教材を通して、星野君の判断と監督の判断のどちらが自分の考えに近いのかポジショニングを行い、自分の考えや根拠を明確にする。さらに話し合いを通して、星野君と監督の考え方の違いはどこなのかを考えさせることを通して、きまりを守ることのよさに迫れるようにしたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

チームのきまりをめぐって星野君と監督の行動について考え、話し合う活動を通して、規則やきまりの意義を理解し、よさに気付き、規則やきまりを進んで守ろうとする道徳的实践意欲と態度を育てる。

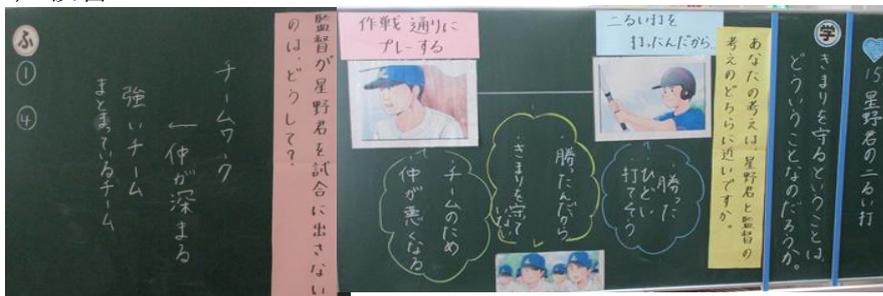
(2) 展開

過程	○学習活動◎主たる発問 ・予想される児童の反応	支援の手立てと留意点(☆評価)	備考
導入 (5)	1 教材の提示 ・ <u>事前に読んだ内容を確認する。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 野球のルールや場面の理解をさせ、話し合いを充実させるための教材文の事前読み </div>	・ 星野君が監督に言いたいことと監督が星野君やチームメイトのみんなに伝えたかったことを考えさせる。 ・ 星野君も監督も勝利を目指していることにもふれる。	テレ ビ 場面 絵
	◎きまりを守るということは、どういうことなのだろうか。		
展開 (35)	2 教材「星野くんの二るい打」について話し合う。 ○あなたの考えは、星野君と監督の考えのどちらに近いですか。 <u>星野君の考え</u> ・試合に勝つことができたからきまりを破ってもいい。	・ 学習問題を意識させる。 ・ 星野君と監督のそれぞれの主張や思いを考えたうえで、どちらの考え方に近いか考えさせ、タブレットを活用し、 <u>ポジショニング</u> に入力させる。理由をノートに書かせる。	タブ レ ット ノー ト

	<p>・自分の二塁打で勝ったのに、ベンチなんて厳しすぎる。</p> <p>監督の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで決めたきまりだから、守らないといけない。 ・きまりを守らないと、自分勝手に行動する人が多くなる。 <p>○チームメイトは、二人のやりとりを見てどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も同じような時がある。 ・星野君だけ守らないのはおかしい。 <p>◎監督が星野君を試合に出さないのはどうしてなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のチームのことを考えてほしかったから。 ・チームワークを大事にしてほしかったから。 <p>〈補助発問〉</p> <p>○チームのみんなが星野君だったら、チームはどうなるのか。</p> <p>○監督は誰のためを思って言ったのだろう。</p> <p>○監督は何を分かってほしかったのか。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し発問をしたり、理由を聞いてみたりすることで、きまりを守るの意味に気付かせる。 ・監督と星野君の考えの違いは何か気付かせる。 <p>映像資料参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しや補助発問をして、作戦の意味やチームワークについて考えさせる。 ・班で話し合わせる。 ・規則やきまり守ることは、どんなことにつながるのかを考えさせ、きまりを守ることのよさに気付かせる。 ・友達の見解や話し合いで、考えが変わった児童は、ポジションの位置を移動させる。 	<p>テレ ビ</p> <p>何 か</p> <p>タブ レッ ト</p> <p>テレ ビ</p>
<p>終末 (5)</p>	<p>3振り返りをする。</p> <p>①今日の学習で考えたこと学んだことはなんですか。</p> <p>④これからどんなふうにしていきたいですか。</p>	<p>☆話し合いから、規則やきまりを守ることに対して自分の考えを深めることができたか。(発言)</p> <p>☆規則やきまりの意義を理解することで、規則やきまりを守るよさに気づき、進んで守ろうとする意欲をもつことができたか。(発言・ノート)</p>	<p>ノー ト</p>

4 授業の様子(図書室で実施)

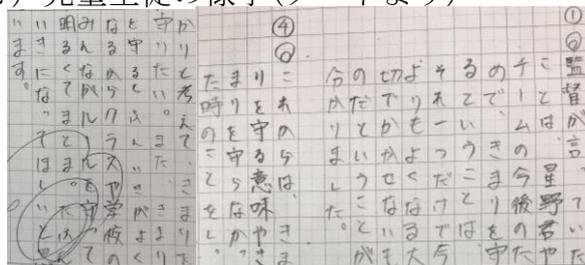
(1) 板書



・話し合いの様子が
見える板書
・場面絵の精選

ポジションの立
場の理由の記述

(2) 児童生徒の様子(ノートより)



振り返りの①
と④の視点の
記述

